

◆リカレント教育

《6月 履修証明プログラムである

「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」開講、科目履修実施 》

【実績】

平成 26 年度に諸規程等を整備した履修証明プログラム(学校教育法第 105 条対応・総時間数 120 時間)を、平成 27 年 7 月 22 日～9 月 30 日の間、延 20 日間で「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」として本学を会場として開講した。開講にあたっては、全科目を履修する者の他、小規模病院等の看護職の現状を踏まえ、選択した単元だけを受講できる道(単元履修)も開いた。大学から遠隔地にある小規模病院等の状況に合わせるため、21 単元中 15 単元(66 時間)を ICT でも受講できるようにした。本事業の ICT の特徴は、教材等を視聴する eラーニング方式ではなく、授業にリアルタイムに参加できる双方向システムを採用している点にあり、ICT でグループディスカッションも可能である。小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの科目構成は、平成 26 年度に行なったニーズ調査に基づき本学が創設した「看護の動向と課題」、「根拠に基づく看護」、「地域密着連携」、「看護研究の基礎」の 4 科目である。

【成果】

履修案内は、協力病院等に限らず山形県内のすべての小規模病院等を対象とした。履修申込みは全科目履修者が 8 名、単元履修者が 48 名、合計 56 名であった。プログラム閉講時の全科目履修者は 6 名であった。成績評価は科目担当者による評価後、看護学科教員会議での審議を経て単位認定を行い、同 6 名に履修証明書を発行した。なお、総単元での延べ受講者数では 488 名となった。当初、「小規模病院等では看護職員が少ないためリカレント教育受講は困難ではないか」と考えていたが、結果的に当初の予定を上回る受講者数になった。双方向システムの ICT を活用できるようにしたこと、2 年間の全科目履修で履修証明書の取得が可能な方法を示したこと、単元履修を可能にしたことが功を奏したと考える。また、山形県看護協会主催の長期研修時期と重複しないように日程調整し、病院の看護職員数確保に配慮したことも効果的であった。ICT 活用によるグループディスカッションは、音声のタイムラグがわずかにあるが、違和感なくディスカッションを実施できるレベルであることが確認できた。協力病院等の看護管理者からは、学ぶ機会が増えたことにより、小規模病院等の看護職の学習意欲を高めることにつながったという高い評価が得られた。

【実施上のポイント】

- ・受講生が受講しやすい実施期間(他研修会との調整)や曜日に実施する。
- ・双方向システムの ICT を活用する。
- ・興味関心のある単元だけの履修を可にする。
- ・複数年での全科目履修を可にする。